

	基本方向	基本施策	狙い	R 1 実施事業	実施状況
①地域産業の発展・活性化 ②新たな起業の応援	ものづくり産業の振興	地域資源の活用とブランド化	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	■「麒麟がくる」関連事業 ■恵那ブランドものづくりコラボレーション ■クラウドファンディング活用支援事業 ■恵那くらしビジネスサポートセンター事業（経営・就職・移住定住支援）	・明智光秀関連商品の開発数：85 品 ・明智光秀グルメの開発数：8 品 ・農家や林業家など 9 事業者が参加し、都市部のメディア関係者らと交流しながら新商品や新事業を企画 ・恵那ビジネスブランコンテスト開催：応募数 20 件、2/8 最終審査、事業費の一部をクラウドファンディングで調達 ・岩村町のシェアカフェ整備費をクラウドファンディングで調達 ・副業人材活用支援事業開始
		知恵とネットワークを生かしたものづくり	事業者連携で地産地消を進め、新たな価値をつくる		・商店街若手経営者勉強会開催：開催回数 5 回、参加者数 10 人、駅前バル企画
		市場開拓・販路拡大	流通を確保する	■「麒麟がくる」関連事業（再掲） ■クラウドファンディング活用支援事業（再掲） ■EC 活用支援プロジェクト ■恵那くらしビジネスサポートセンター事業（経営・就職・移住定住支援）（再掲）	・市内の観光関連施設 9 箇所に明智光秀関連商品販売ブースを設置 ・プレミアム付き商品券参加店舗数：387 店（H30 年度：381 店） ・フードセレクション等物産展：参加事業者数：7 社 ・恵那ビジネスブランコンテスト開催：応募数 20 件、2/8 最終審査、事業費の一部をクラウドファンディングで調達（再掲） ・岩村町のシェアカフェ整備費をクラウドファンディングで調達（再掲） ・農家や林業家など 9 事業者が参加し、都市部のメディア関係者らと交流しながら新商品や新事業を企画（再掲）
	集客・交流産業の振興	集客・交流産業の振興	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	■観光振興ビジョンの策定 ■DMO の推進 ■麒麟がくる」関連事業（再掲） ■恵那峡再整備事業（ソフト） ■恵那ブランドものづくりコラボレーション（再掲） ■恵那くらしビジネスサポートセンター事業（経営・就職・移住定住支援）（再掲）	・観光ビジョン策定に向けて検討会議を設置 ・日本版 DMO 候補法人の登録を申請 ・大河ドラマ「麒麟がくる」小和田哲男氏講演会の開催 ・光秀まつりの拡充開催 ・明智町花火大会での桔梗花火打ち上げなど市内のイベントにおける大河ドラマ関連企画の実施 ・中山道ぎふ 17 宿歩き旅での体験プログラム開催：五平餅づくり体験など 3 プログラム ・あそびづくりワークショップ開催：開催回数 8 回、参加者数 80 人 ・農家や林業家など 9 事業者が参加し、都市部のメディア関係者らと交流しながら新商品や新事業を企画（再掲） ・恵那ビジネスブランコンテスト開催：応募数 20 件、2/8 最終審査（再掲）、事業費の一部をクラウドファンディングで調達（再掲）
		集客できる拠点の整備	楽しんでもらえる場所をつくる	■「麒麟がくる」関連事業（再掲） ■観光客受入環境整備	・麒麟がくる ぎふ恵那 大河ドラマ館、東美濃の山城展整備 ・明智光秀ゆかりの地史跡サイン、ルート案内サイン整備 ・白鷹城跡整備（間伐、散策路整備、史跡・ルートサイン整備、ベンチ整備） ・明智光秀ゆかりの地市民観光ガイドの育成 ・臨時駐車場整備（旧明智保育園、旧明智保健センター） ・公衆トイレ洋式化（恵那駅前、根ノ上キャンプ場、恵那峡、日本大正村駐車場）
		魅力発信	市内外に魅力を知ってもらう	■「麒麟がくる」関連事業（再掲） ■クラウドファンディング活用支援事業（再掲） ■恵那くらしビジネスサポートセンター事業（経営・就職・移住定住支援）	・明智光秀ゆかりの地マップ、山城攻略マップ、お土産・グルメマップの作成 ・明智光秀ゆかりの地特設WEBサイトの作成 ・明智光秀ゆかりの地 恵那市アプリの作成 ・「明智光秀ゆかりの地」のぼり旗など各種 P R ツールの作成 ・SNS を活用した情報発信 ・全国山城サミット可児市大会で PR 実施 ・恵那ビジネスブランコンテスト開催：応募数 20 件、2/8 最終審査（再掲）、事業費の一部をクラウドファンディングで調達（再掲） ・岩村町のシェアカフェ整備費をクラウドファンディングで調達（再掲）
	経営基盤の強化	経営支援	時代に対応した持続する経営体制を整える	■恵那くらしビジネスサポートセンター事業（経営・就職・移住定住支援）（再掲）	・ビジネス相談実施事業者数：142 者（建設業・製造業を除く）
		経営基盤の強化		■キャッシュレス決済システム導入推進プロジェクト ■恵那くらしビジネスサポートセンター事業（経営・就職・移住定住支援）（再掲） ■事業承継支援事業	・キャッシュレス決済等導入支援補助金利用件数：3 件（新規事業） ・商工会議所「小さなお店のキャッシュレス決済セミナー」開催：参加事業者数 20 者（目標 50 者） ・岐阜県事業承継ネットワーク加入 ・事業承継セミナー参加者数：15 者（目標 20 者）
		新たな担い手発掘と育成	起業・創業しやすい環境をつくる	■恵那くらしビジネスサポートセンター事業（経営・就職・移住定住支援）（再掲） ■創業・起業チャレンジ事業	・創業セミナー参加者数：52 人（目標 20 人） ・起業者数：11 件（前年度 15 件）
	人材の確保・育成	人材の確保	働きたいと思われる職場をつくる	■企業の採用力向上事業 ■成果を上げる就職面接会等のシステム構築 ■恵那くらしビジネスサポートセンター事業（経営・就職・移住定住支援）（再掲）	・採用力向上セミナー参加事業者数：119 者（目標 40 者） ・東美濃就職面接会：参加事業者数 88 者（前年度 77 者）、来場者数 175 人（前年度 100 人） ・働き方改革セミナー開催：参加事業者数 3 者

令和元年度恵那市産業振興ビジョンに基づく事業の進捗状況（商業・観光分野）

参考資料②

		市民が事業者を知る機会の創出	地域の人に事業者の魅力を 知ってもらう	■恵那くらしビジネスサポートセンター事業（経営・就職・移住定住支援）（再掲）	・企業の魅力発信事業補助金：0社（目標5者） ・恵那南高校での企業説明会：参加事業者数9者、参加生徒数9人（前年度21者、425人） ・恵那高等学校での企業講話：参加事業者数2者、参加生徒数160人（初開催） ・高校教諭企業見学ツアー：参加事業者数6者、参加教諭数13人（初開催） ・恵那西中学校での企業説明会：参加事業者数8者、参加生徒数130（初開催）
		潜在的人材の発掘	まだ働いていない人に活躍して もらう	■女性の活躍推進事業 ■シニアワークステーション事業（シニア雇用促進）	・サポートセンター相談による就職者数：48人（前年度34人） ・女性の再就職セミナー参加者数：16人（目標20人） ・シニアの再就職セミナー参加者数：22人（前年度36人） ・シニア向けミニ企業説明会：参加事業者数4社、参加者数47人（前年度参加事業者数4社、参加者数34人） ・高齢者の再就職人数：6人（前年度7人）
		人材育成	伝統や文化、技術を伝え、 次の担い手を育成する		
③バランスの取れた企業誘致	産業基盤の強化	企業立地の促進	地域に必要な企業を誘致する		
		地域の個性を生かした産業基盤の強化			

令和元年度恵那市産業振興ビジョンに基づく事業の進捗状況（工業分野）

	基本方向	基本施策	狙い	R 1 実施事業	実施状況
①地域産業の発展・活性化 ②新たな起業の応援	ものづくり産業の振興	地域資源の活用とブランド化	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	■ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（経営・就職・移住定住支援）	
		知恵とネットワークを生かしたものづくり	事業者連携で地産地消を進め、新たな価値をつくる		
		市場開拓・販路拡大	流通を確保する	■ 恵那市商工振興補助金	・展示会出展補助件数：8 件 ・異業種交流展示会（メッセナゴヤ 2019）出展事業者数：10 社
	集客・交流産業の振興	集客・交流産業の振興	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる		
		集客できる拠点の整備	楽しんでもらえる場所をつくる		
		魅力発信	市内外に魅力を知ってもらう		
	経営基盤の強化	経営支援	時代に対応した持続する経営体制を整える	■ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（経営・就職・移住定住支援）（再掲）	・ビジネス相談実施事業者数：建設・製造業 38 者（前年度 35 者）
		経営基盤の強化		■ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（経営・就職・移住定住支援）（再掲） ■ IoT 推進ラボ事業 ■ ものづくり産業の生産性向上事業 ■ 事業承継支援事業	・岐阜県 IoT コンソーシアム加入 ・IoT 活用支援セミナー：参加事業者数 17 社 ・先端設備等導入計画認定数：14 件（前年度 29 件） ・岐阜県事業承継ネットワーク加入 ・事業承継セミナー参加者数：15 者（目標 20 者）
		新たな担い手発掘と育成	起業・創業しやすい環境をつくる	■ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（経営・就職・移住定住支援）（再掲） ■ 創業・起業チャレンジ事業	・サポートセンターでの創業支援実施件数：22 件（前年度 50 件） ・創業セミナー参加者数：52 人（目標 20 人） ・起業者数：11 件（前年度 15 件）
	人材の確保・育成	人材の確保	働きたいと思われる職場をつくる	■ 企業の採用力向上事業 ■ 成果を上げる就職面接会等のシステム構築 ■ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（経営・就職・移住定住支援）（再掲）	・採用力向上セミナー参加事業者数：119 者（目標 40 者） ・ひがしみの就職企業面接会：参加事業者数 88 者（前年度 77 者）、来場者数 175 人（前年度 100 人） ・働き方改革セミナー開催：参加事業者数 3 者
		市民が事業者を知る機会の創出	地域の人に事業者の魅力を知ってもらう	■ 成果を上げる就職面接会等のシステム構築（再掲） ■ 企業の魅力発信事業 ■ 恵那くらしビジネスサポートセンター事業（経営・就職・移住定住支援）（再掲）	・企業の魅力発信事業補助金：0 社（目標 5 者） ・恵那南高校での企業説明会：参加事業者数 9 者、参加生徒数 9 人（前年度 21 者、425 人） ・恵那高等学校での企業講話：参加事業者数 2 者、参加生徒数 160 人（初開催） ・高校教諭企業見学ツアー：参加事業者数 6 者、参加教諭数 13 人（初開催） ・恵那西中学校での企業説明会：参加事業者数 8 者、参加生徒数 130（初開催）
		潜在的人材の発掘	まだ働いていない人に活躍してもらう	■ 女性の活躍推進事業 ■ シニアワークステーション事業（シニア雇用促進）	・女性の再就職セミナー参加者数：16 人（目標 20 人） ・サポートセンター相談による就職者数：48 人（前年度 34 人） ・シニアの再就職セミナー参加者数：22 人（前年度 36 人） ・シニア向けミニ企業説明会：参加事業者数 4 社、参加者数 47 人（前年度参加事業者数 4 社、参加者数 34 人） ・高齢者の再就職人数：6 人（前年度 7 人）
		人材育成	伝統や文化、技術を伝え、次の担い手を育成する		
③バランスの取れた企業誘致	産業基盤の強化	企業立地の促進	地域に必要な企業を誘致する	■ 企業誘致促進事業 ■ 本社機能移転プロジェクト ■ 工業団地造成事業 ■ テレワーク推進事業	・ターゲット企業との面談件数：市内企業 35 社、都市部企業 1 社 ・金融機関と連携した誘致企業の情報収集 ・日経 XTECH2019 でのアンケート実施企業数：70 社（前年度 130 社） ・サテライトオフィス利用者数：20 社（目標 9 社）
		地域の個性を生かした産業基盤の強化		■ 企業誘致促進事業（再掲） ■ 本社機能移転プロジェクト（再掲）	・ロボットビジネス支援機構加入

	基本方向	基本施策	狙い	R1 実施事業	実施状況
①地域産業の発展・活性化 ②新たな起業の応援	ものづくり産業の振興	地域資源の活用とブランド化	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	■ 水稲 + 1 推進事業 ■ NEW FARMERS 交流会議 ■ 農業の様々な主体との連携事業 ■ 遊休農地の活用促進事業 ■ 食と農の交流会	・白小豆栽培（15 アール） ・「たべとるマルシェ」の開催：7 回（月 1 回/第 3 土曜日） ・ネットによる農産物のお試し販売（たべとる BOX）：4 件 ・都市部でのイベント出店：1 回 ・清水屋（春日井店）での販売：2 回 ・産官学連携によるエゴマ・蜂蜜の栽培と 6 次産業化 → エゴマレシビ普及プロジェクトの開催 → エゴマ生産者組合の設立 ・農地付き物件の取得件数：5 件 ・耕作放棄地解消支援事業（新規）：8 件 3.3ha ・人・農地プランの実質化に向けたアンケート調査の実施 ・たべるプロジェクトの推進（恵那市たべる推進協議会の設立）
		知恵とネットワークを生かしたものづくり	事業者連携で地産地消を進め、新たな価値をつくる	■ 食と農の交流会 ■ 農福連携事業の構築 ■ 日本食農連携機構との連携	・2018 年 04 月 27 日 食農交流会コアメンバーによる食文化創造推進都市先進地視察（山形県鶴岡市） ・2019 年 10 月 10 日 第 5 回「食×農交流会」を実施（エゴマレシビ普及プロジェクト） ・2019 年 11 月 20 日 東京農業大学教授 小泉武夫 氏による「命はぐくむ 食と農講演会」を実施 ・福祉事業所とのお試しマッチング：3 回（トマト 2 件、養蜂）
		市場開拓・販路拡大	流通を確保する	■ 食と農の交流会（再掲） ■ 拠点となる農産物販売所の整備 ■ NEW FARMERS 交流会議（再掲）	・食×農交流会の開催：2 回 ・「たべとるマルシェ」の開催：7 回
	集客・交流産業の振興	集客・交流産業の振興	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	■ 地産地消推進の店登録	・登録店舗数：10 店舗（11/20 現在）
		集客できる拠点の整備	楽しんでもらえる場所をつくる	■ 拠点となる農産物販売所の整備（再掲） ■ 都市農村交流事業	・販売所在り方検討委員会の開催 ・アグリツアーの企画作成（22 農家に協力）
		魅力発信	市内外に魅力を知ってもらう	■ 食と農のポータルサイト「たべとる」の充実開設	・サイト年間閲覧数：37,401 件（11/20 現在） ・移住・交流情報ガーデン（東京都）への新規就農相談ブース出展（1 回）
	経営基盤の強化	経営支援	時代に対応した持続する経営体制を整える	■ 食と農の交流会（再掲） ■ 農業者の経営改善事業（MBA 農業塾の開催） ■ 農福連携事業の構築（再掲） ■ スマート農業の推進（計画策定）（新規）	・食×農交流会の開催：2 回（再掲） ・セミナー開催に向け講師選考中 ・福祉事業所とのお試しマッチング：3 回（再掲） ・計画策定に向け策定委員会の設立準備中
		経営基盤の強化		■ 担い手の育成・確保事業	・新規就農者相談件数：6 件 ・移住・交流情報ガーデン（東京都）への新規就農相談ブース出展（1 回）（再掲）
		新たな担い手発掘と育成	起業・創業しやすい環境をつくる	■ 担い手の育成・確保事業（再掲）	・新規就農者相談件数：6 件（再掲） ・あすなる農業塾長による研修：2 人
		人材の確保	働きたいと思われる職場をつくる	■ 農業者の経営改善事業（再掲） ■ 担い手の育成・確保事業（再掲）	・セミナー開催に向け講師選考中（再掲） ・新規就農者相談件数：6 件
		市民が事業者を知る機会の創出	地域の人に事業者の魅力を知ってもらう	■ NEW FARMERS 交流会議（再掲）	・「たべとるマルシェ」の開催：7 回（再掲）
	人材の確保・育成	潜在的人材の発掘	まだ働いていない人に活躍してもらう	■ 担い手の育成・確保事業（再掲）	・新規就農者相談件数：6 件（再掲） ・あすなる農業塾長による研修：2 人（再掲）
		人材育成	伝統や文化、技術を伝え、次の担い手を育成する		
		企業立地の促進	地域に必要な企業を誘致する	■ 日本食農連携機構との連携（再掲）	・企業参入型農業への支援検討
	産業基盤の強化	地域の個性を生かした産業基盤の強化			

令和元年度恵那市産業振興ビジョンに基づく事業の進捗状況（林業分野）

	基本方向	基本施策	狙い	R1 実施事業	実施状況
①地域産業の発展・活性化 ②新たな起業の応援	ものづくり産業の振興	地域資源の活用とブランド化	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる	■オリジナル木製品開発促進事業	・木工展の参加事業者数：7者（目標6者） 木工展の来場者数：340人（目標400人） ・木製品アイデアとして森と木を生かす方策を検討し、新たな商品を検討する（1/11、2/1、2/15の3回を予定）
		知恵とネットワークを生かしたものづくり	事業者連携で地産地消を進め、新たな価値をつくる		
		市場開拓・販路拡大	流通を確保する	■住宅建築の促進事業	・建築施工業者へ建築件数や木材利用についてのアンケート実施（20業者中、18業者が回答）
	集客・交流産業の振興	集客・交流産業の振興	「恵那といえばこれ！」というモノ・コト・サービスをつくる		
		集客できる拠点の整備	楽しんでもらえる場所をつくる		
		魅力発信	市内外に魅力を知ってもらう	■えなの森林魅力発信事業	・山しごと手習い塾：年8回開催予定（基礎編、応用編）（参加目標10人/回） 11/10までに3回開催、参加者14人 ・森のインターンシップ：11月～随時参加 参加者募集中
	経営基盤の強化	経営支援	時代に対応した持続する経営体制を整える		
		経営基盤の強化		■森林環境譲与税を活用した森林整備	・モデル地区を設定し意向調査から森林整備まで実施 ・意向調査済面積 51㌥ ・経営管理権の設定に伴う集積計画作成（予定面積30㌥） ・集積計画に伴う森林整備（予定面積30㌥）
		新たな担い手発掘と育成	起業・創業しやすい環境をつくる		
	人材の確保・育成	人材の確保	働きたいと思われる職場をつくる	■えなの森林魅力発信事業（再掲）	・山しごと手習い塾：年8回開催予定（基礎編、応用編）（参加目標10人/回） 11/10までに3回開催、参加者14人（再掲） ・森のインターンシップ：11月～随時参加 参加者募集中（再掲）
		市民が事業者を知る機会の創出	地域の人に事業者の魅力を知らってもらう		
		潜在的人材の発掘	まだ働いていない人に活躍してもらう		
		人材育成	伝統や文化、技術を伝え、次の担い手を育成する	■オリジナル木製品開発促進事業（再掲）	・木工展の参加事業者数：7者（目標6者）（再掲） 木工展の来場者数：340人（目標400人）（再掲） ・木製品アイデアとして森と木を生かす方策を検討し、新たな商品を検討する（1/11、2/1、2/15の3回を予定）（再掲）
③バランスの取れた企業誘致	産業基盤の強化	企業立地の促進	地域に必要な企業を誘致する		
		地域の個性を生かした産業基盤の強化			